

「相談室」通信

発行：西岡病院 医療介護相談センター <http://www.nishioka-hosp.jp>

摂食嚥下について知ろう！！

当院では摂食嚥下（せっしょくえんげ）に関する取り組みを強化しています。今号では当院で行っている摂食嚥下の取り組みをご紹介いたします。

1. 摂食嚥下とは？

1)摂食（せっしょく）とは？

摂食とは、食べ物を口に取り込み、噛み碎いて飲み込みやすい形にするまでの一連の動作のことです。具体的には、食べ物を見て認識し、口に運び、歯で適度な大きさに噛み砕き、唾液と混ぜ合わせて食塊（しょっかい）という塊を作る過程を指します。この過程では、歯や舌、頬の筋肉などが協調して働きます。美味しく安全に食事をするための最初の大切なステップです。

2)嚥下（えんげ）とは？

嚥下とは、口の中で作られた食べ物の塊を、喉を通って食道へ、そして胃へと送り込む「飲み込み」の動作のことです。この瞬間、気管への入り口が自動的に閉じて、食べ物が誤って肺に入らないよう守られます。わずか数秒の動作ですが、舌や喉、食道など30以上の筋肉が絶妙なタイミングで連携しています。この機能が低下すると、ムセや誤嚥（ごえん）のリスクが高まります。

2. 摂食嚥下評価入院について

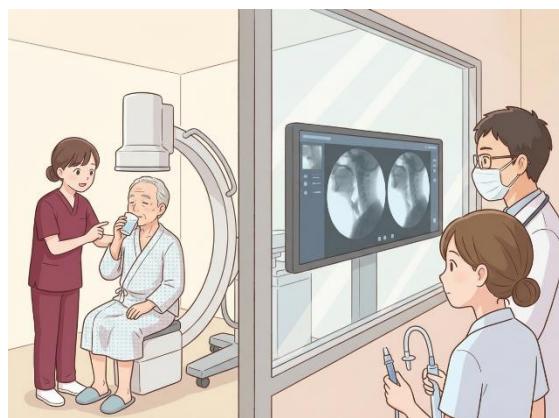
当院では「摂食嚥下評価入院」の取り組みを開始しました。

食べ物が飲み込みづらい、お薬が飲みづらいなどの症状に対して、検査等を行います。

検査結果によっては、そのまま摂食嚥下リハビリテーションの継続も可能です。

1)嚥下造影検査（VF検査）とは？

造影剤を混ぜた食べ物や飲み物を実際に飲み込んでいただき、その様子をレントゲン撮影で動画として記録する検査です。口から胃まで食べ物が通る全体の流れを横から観察できるため、どの段階でどのような問題が起きているかを詳しく把握できます。ムセや誤嚥のタイミング、食べ物の残り具合なども確認でき、安全な食事の形態や姿勢を検討する上で非常に有効です。



2) 嘉下内視鏡検査（VE 検査）とは？

鼻から細い内視鏡カメラを入れて、喉の奥の動きを直接観察しながら行う検査です。実際の食事に近い環境で、ベッドサイドや診察室でも実施できるのが大きな特徴です。

喉の粘膜の状態、唾液の溜まり具合、声帯の動きなどを詳しく観察でき、食べ物を飲み込む前後の様子を確認できます。

レントゲン被曝がなく、移動が困難な方にも対応可能です。



3. 嘉下調整食試食会

当院では2018年から「嘉下調整食試食会」という勉強会を年1回開催しています。

リハビリテーション専門医や摂食嘉下に関する認定看護師が講義を行い、その後には当院近隣の医療機関や介護保険施設から、看護師・言語聴覚士

・管理栄養士・介護福祉士・生活相談員など多職種の方々で実際に患者さん入居者さんに提供している嘉下調整食の“食べ比べ”をしています。各事業所の提供されている嘉下調整食を食べ比べすることで「違い」を意識し、退院した後でも安心して「食べる」「飲める」を継続していただくことを目的とした取り組みです。



「最近、ムせるようになった」「飲んでいた薬が喉に引っかかるような気がする…」など気になる症状があれば、お気軽に医療介護相談センターまでご相談下さい。

「医療介護相談センター」のご案内

ご相談をご希望の際は1階受付・各看護ステーションまでお申しつけ下さい。

また、お電話でのご相談もお受けしております。

西岡病院 代表電話 011-853-8322

※外来受診や検査予約についてのご相談は地域連携部門直通電話 011-853-8702 へ
相談対応時間：月～金 9時～17時 土：9時～12時)

医療ソーシャルワーカー：横田、前川、平川、中村